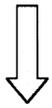


## 川崎病突然死予防に関する研究

分担研究者	東京女子医科大学小児科	草	川	三	治
研究協力者	自治医科大学公衆衛生	柳	川		洋
	日赤医療センター小児科	川	崎	富	作
	日本大学小児科	大	国	真	彦
	東京医科歯科大学小児科	矢	田	純	一
	国立公衆衛生院	杉	浦		昭
	東邦大学大橋病院病理研究室	直	江	史	郎
	神奈川県衛生研究所細菌病理部	宮	本		泰
	京都大学病理学教室	濱	島	義	博
	京都大学小児科	三	河	春	樹
	久留米大学小児科	加	藤	裕	久

昭和55年度より、主として治療、管理指導を目的として本研究が再出発したが、治療を行うためには原因が追究されねばならず、原因について最初に戻り原点からの出発ということで、咽頭培養、便からのウイルスの検索が行われたが、今の所まだ何も発見できなかった。疫学的にみれば日本列島を西から東北に向けて発生が移動している所見がわかり、また昭和54年春から夏にかけて大発生が見られたことなどから、感染症が疑われるが、これも確たる証拠は得られなかった。しかしカンジダによる動物実験モデルができることがわかったし、免疫複合体の存在もほぼ確定できたし、一つの進歩であった。治療、管理に関しては、フロベンがアスピリンと同様有効であるとは思われたが、これは来年度より、プログラムを組んでアスピリン、副腎皮質ホルモンなどの治療成績を前向きに検討することとなった。心臓障害にはエコーが極めて有用であり、また学童の川崎病罹患者のスクリーニング法のシステムが大体開発され今後の研究がまたれる。以上の研究をもとにして、さらに長期予後、長期管理の方法を次年度より追究していく予定である。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



昭和 55 年度より,主として治療,管理指導を目的として本研究が再出発したが,治療を行うためには原因が追究されねばならず,原因について最初に戻り原点からの出発ということで,咽頭培養,便からのウイルスの検索が行われたが,今の所まだ何も発見できなかった。疫学的にみれば日本列島を西から東北に向けて発生が移動している所見がわかり,また昭和 54 年春から夏にかけて大発生が見られたことなどから,感染症が疑われるが,これも確たる証拠は得られなかった。しかしカンジダによる動物実験モデルができることがわかったし,免疫複合体の存在もほぼ確定できたし,一つの進歩であった。治療,管理に関しては,フロベンがアスピリンと同様有効であるとは思われたが,これは来年度より,プログラムを組んでアスピリン,副腎皮質ホルモンなどの治療成績を前向きに検討することとなった。心臓障害にはエコーが極めて有用であり,また学童の川崎病罹患者のスクリーニング法のシステムが大体開発され今後の研究がまたれる。以上の研究をもとにして,さらに長期予後,長期管理の方法を次年度より追究していく予定である。